

## 第 2 回但馬地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：令和 3 年 3 月 24 日（水） 14 時～16 時  
場 所：兵庫県和田山庁舎本館 3 階 301、302 会議室  
次 第

1. 開会
2. 但馬地域公共交通計画の策定について
  - (1) 住民アンケート調査結果
  - (2) 計画素案の概要
  - (3) 試験運行
3. その他  
今後のスケジュール
4. 閉会

### 議事要旨

#### ○主な意見

[住民アンケート調査結果に関するもの]

委 員：アンケートの回答数は、統計的な基準を満たしているか。

事務局：理論的に必要なサンプル数は十分満たしている。

委 員：自家用車を利用している人を対象とした公共交通利用の促進は難しいが、送迎で移動している人の公共交通への転換が短期的な課題ではないか。

委 員：「公共交通が不便だ」と回答した人が多いが、住んでいる地域や年代、不便と感ずる理由などを深掘りすることで、地域が求める交通形態を把握できるなど、より有効なデータを得ることができるのではないか。

事務局：意見を参考に、アンケート調査結果のクロス集計などの分析を進める。

委 員：路線バス・コミュニティバスの改善点に関する設問では、増便や乗換の少なさを挙げる人が多い。輸送資源が限られているため増便などの対応は難しいが、タクシーやバスなどをリアルタイムで配車ができるれば、改善できるのではないか。また、高齢者の車両の乗降に関する回答も多く、タクシーのように小型で、運転手がサポートするような交通手段が有効ではないか。

委 員：地域支え合い型交通のニーズも確認できた。「安全面で不安がある」

と懸念する意見もあるが、養父市の自家用有償旅客等運送事業「やぶくる」のように事業者と協力するなどに対応できるのではないか。

委員：公共交通の維持に関する設問について、何らかの対策を講じてでも公共交通の維持が必要と考える人が約4割となっているが、どの様に捉えているか。

事務局：公共交通の利用者が少ない中、ある程度公共交通の必要性が認識されていると感じている。「わからない」などの回答も多く、公共交通の必要性を広く周知することが重要と考える。

委員：バス停までの距離とバス利用の関係について、詳細な分析を行ってほしい。

事務局：意見を参考に、アンケート調査結果の分析を進める。

委員：スマートフォンの利用状況について、徐々に高齢者も利用できる人が増えてくるのではないか。

委員：ICT技術を活用した施策の可能性とは、具体的にどういったものを想定しているのか。

事務局：経路検索や予約、決済方法を一連として提供するMaaSなどのサービスや、電子チケットなどを想定している。こうした技術を活用することで、リアルタイム配車なども可能になると考えている。

委員：計画の基本方針において「広域的な交流を支える」と記載があるため、地域別の移動特性などを分析し、目標等に反映してほしい。

事務局：意見を参考に、アンケート結果の分析を進め、目標を検討する。

#### [計画素案の概要に関するもの]

委員：地域が目指すべき姿について、公共交通ではなく、地域の姿としているが、意図があるのか。公共交通に関する計画であるため、公共交通についての記載の方がよいと感じる。

事務局：地域が目指すべき姿として大きなテーマを設定し、その実現に向け公共交通で何ができるかを目標に落とし込むという構成としている。

委員：地域が目指すべき姿を実現するために公共交通のあるべき姿を決めていくのが本計画であると認識している。公共交通のあるべき姿を設定し、その実現のために目標を設定し、達成状況を指標で確認するよう意識してほしい。現状では施策や指標が先行している印象を受ける。

事務局：意見を参考に検討を進める。

- 委員：目標について、「地域の暮らしを守る」が一番大きなテーマとなっているが、目標を明確にし、指標との関連性を意識した再設定が必要と考える。
- 事務局：表現を含めて再度検討していきたい。指標については、わかりやすさや収集の容易さも考慮しつつ、検討を進める。
- 委員：地域の足を確保することだけでは、従来のビジネスモデルのままである。先進的な取り組みも行ったほうがよいのではないか。但馬地域においても他分野と連携した取り組みが必要だと感じる。
- 事務局：買い物などの生活の課題を、公共交通でどの様に解決できるかといった視点も持ち、検討を進める。
- 委員：指標について、人口が減少している中で、路線バス・コミュニティバスの収支率や利用者数も減少が予測される。収支率だけでなく、生活全体で見てほしい。また、貨客混載のように他分野と交通の分野の連携も計画に含めていければと思う。
- 事務局：目標値をどのように設定するかという問題はあるが、数値のモニタリング自体は継続したい。公共交通全体でその効果を見るという観点から今後検討していきたい。
- 委員：指標のノンストップバス導入率について、国の目標に基づき導入を進めているが、ノンステップバスは歩道からの乗車を想定し設計されているのに対して、但馬地域では歩道のある地域が少ないことや、市町のコミュニティバスでは補助ステップ付き車両を導入していることなどを考慮し、目標に補助ステップの導入率を加えてはどうか。
- 事務局：補助ステップの導入など、他の取り組みも含め検討していく。また、バス停等についても整備の必要性を感じているため、ハード面の整備も検討する必要があると考えている。
- 委員：指標について、バスに関する項目が多く、鉄道に関しても利用回数等を加えてはどうか。
- 事務局：意見を参考に検討を進める。
- 委員：施策 1-1 で、様々な取り組みの事例を挙げているが、これらの事例が成功しているのか確認する必要がある。
- 事務局：事例としている取り組みの効果や課題を整理し、提示できるようにしたい。
- 委員：観光などでは鉄道の重要性が大きいと思う。バスに加え鉄道に関しても計画に盛り込んでどうか。
- 事務局：鉄道については基幹的な公共交通という認識のもと、最大限活用す

る方向で施策を検討したい。

委員：バス運転手の確保は喫緊の課題であるため、具体的な施策として欲しい。

委員：運転手の確保について、毎年度作成している公共交通に関する情報誌で求人情報を掲載しているが、他企業との関係もあり大々的な情報発信が難しい。こうした場で取り上げてもらえると、行政としても応援がしやすくなると感じる。

事務局：どのように運転手の仕事の魅力を発信していくかが課題と感じている。他市では、移住とバス運転手の仕事をセットでアピールしている事例もあるため、交通分野以外と連携した施策も検討していきたい。

委員：県の但馬地域ビジョンでは2050年を目標としているが、本計画もより長期的な視点を持ち、夢がもてるような方向で公共交通について計画してはどうか。

事務局：方向性としては但馬地域ビジョンとの整合を図るようにする。

委員：香美町でも令和元年に住民アンケートを行ったが、今回のアンケートと同じ傾向である。公共交通が必要であるとの回答は多いが、実際の利用者は少ない。一方で、バスを利用しなければいけない人も5%程度いるため、セーフティネットとしての需要は少なからずあることが分かった。市町単独では公共交通全体の改善が難しいため、公共交通が必要な人に確実に提供できるよう、どこに投資を集中するべきか等を検討してほしい。

事務局：公共交通の利用意向が少ない地域においても、輸送資源の選択と集中により、移動手段を確保できるよう検討していく。

委員：路線バス、コミュニティバス、自家用有償輸送を活用してもカバーできない公共交通空白地が問題だと感じている。バスを増やすことは難しいため、自家用有償輸送のエリア拡大などが考えられるが、運転手の確保や制度づくり、既存の事業者との共存体制などに課題がある。

事務局：そのような課題についても、計画の中で取り上げていきたい。

以上